

# みんなで支え みんなで育てる 大玉村の教育の推進

－立上げから学校支援の実際まで－



大玉村学校支援地域本部

## 〈 内 容 〉

- 1 ねらい
- 2 立上げまでの流れ
- 3 ボランティアの登録状況
- 4 コーディネーターの活動状況
- 5 支援の実践事例
- 6 成果と課題



### 1 「大玉村学校支援地域本部」のねらい

大玉村教育委員会は、平成20年度から「みんなで支え、みんなで育てる大玉の教育」をスローガンに教育改革に取り組んでいます。学校支援地域本部は、保護者や地域住民が「学校の応援団」として学校教育に関わることで、子どもたちの教育をより充実させることをねらいに立上げられました。平成23年度には、保護者や地域住民が学校運営に参画する「コミュニティースクール」へ、村内の幼稚園、小中学校が移行する予定で、その中で学校支援地域本部が果たす役割は大きく期待されています。

### 2 立上げまでの流れ

昨年度末から4月にかけて、村内の婦人会や老人クラブ、体育協会、文化団体連絡協議会などの各種団体の総会時に時間をいただき、大玉村学校支援地域本部の概要を説明するとともに、ボランティア登録用紙を配付し、登録をお願いしました。

また、児童生徒の保護者に対してもボランティア登録用紙を配付するとともに、募集チラシを村内各戸に配付し、広く村内からの登録をお願いしました。

5月の連休明けから学校支援の実施を目標に、先進市町村の例を参考にしながら、「大玉村学校支援地域本部設置要綱」と「大玉村地域教育協議会設置要綱」を制定し、5月17日（日）に地域教育協議会を開催するとともに、学校支援地域本部の立上げ式を行いました。

本部の立上げ式には、登録していただいたボランティアに出席していただき、ボランティア証を渡しました。また、立上げ式終了後にボランティアの研修会も行いました。



ボランティア証の交付



ボランティア研修会

### 3 ボランティアの登録状況

11月現在で、80名の登録があります。支援内容ごとの登録者数は、学習支援が33人、環境整備が23人、部活動支援が4人、安全パトロールが18人、学校行事支援が10人、保育活動の補助が12人、本の読み聞かせが22人、その他の登録が11人です。

これは、一人でいくつものボランティアを兼ねている場合があります、延べ人数で表記してあります。中には、団体としての名簿で一括して登録されている方もいるので、実際には、登録されていてもボランティア活動への協力が難しい方がいるというのが現状です。一人一人に対して、ボランティアの保険をかけているということもあり、今年度末には、登録の継続について意向を聞き、整理する必要があります。

自分から進んで登録してくださっている方もいますが、支援の内容に応じてコーディネーターから直接お願いして登録していただいた方も、たくさんいらっしゃいます。

### 4 コーディネーターの活動状況

コーディネーターは、基本的に月曜日から金曜日の午後2時～5時の3時間、教育委員会の事務局で業務にあたりながら、村内の小中学校、幼稚園を訪問します。

学校から届いた「ボランティア要請書」に基づいて、訪問した際にボランティアの活動内容の打ち合わせをしたり、コーディネーターから「こんな協力もできますよ」とアプローチしたり、これまでの実践例や登録の内容をお話したりしています。

また、支援が可能かどうかボランティアと連絡を取って、決まったら「ボランティア決定通知書」を作成して、学校に送付します。

ボランティアは、仕事を退職された世代の方ばかりでなく、仕事を持っている方も多く、日中なかなか連絡がつかなくて、勤務時間外に連絡を取り合うことが多いのも現状です。



## 5 支援の実践事例

支援対象学校 … 中学校1校、小学校2校、幼稚園2園

本年度の支援状況 … 4月～19月末 16件

### ① 5月の玉井幼稚園 遠足の補助の実践

保護者が同伴しないバス遠足で、入園して1ヶ月半の年少児や個別に注意の必要な幼児のための補助の要請を受けてボランティア3名が同行しました。

主に、自由遊びの中で安全に遊ぶよう目を配ったり、お昼のお弁当の時の荷物の出し入れやシートの片付けをしたりと手伝っていただきました。

幼稚園の先生方からも、とても助かったと大変喜んでいただきました。

注意が必要な幼児の名前などについては、外部に漏らしたりすることのないように、事前にお願ひしました。



### ② 9月から実施の小中学校の通学時の安全パトロールの実践

子どもたちの見守り隊として、通学時の安全パトロールをしていただいています。

村内全域の交通量の多いところ、また人通りの少ないところなど、くまなく配置できれば理想的なのですが、実際にはそうは行かず、それぞれ都合のつく日に目印のたすきを掛けて見守りに立っていただき、通学する子どもたちへの声かけや安全確保をしていただいています。

不審者情報などによる緊急時にも集団登下校への付き添いをお願いしていますが、現在まで問題事案は起きていません。





### ③ 9月の玉井小学校 JRでの校外学習の引率補助の実践

2年生2クラス合同の体験学習への引率補助の要請がありました。

本宮駅から郡山駅まで電車に乗るということで、一人一人切符を買ったり、電車にスムーズに乗ったりできるように、2名のボランティアが補助に入りました。



### ④ 10月からの大山・玉井両小学校

#### 本の読み聞かせの実践

この頃から、子どもたちや先生方に、どんなボランティアが学校に来るのか知ってもらうように、『本日のボランティアさん』という表示を用意して、生徒の昇降口や職員室など、目に触れるところに掲示していただくようにしました。

読み聞かせについては、立上げの当時から要請があるのではないかと想定して、協力していただけるボランティアを集めて、事前に打ち合わせと練習会を行って準備していました。

実際の取組みは、両小学校で、10月から、週1回のペースで始まりました。

お昼休みの約20分程度を利用して、図書室や空き教室で、主に絵本の読み聞かせを行っています。ボランティアは2名体制で行うようにし、一人が読み聞かせをしよう一人が出入りする児童への対応をしたり、読み聞かせの様子を客観的に見るようにし後でお互いに振り返ることができるようにしたりしています。また、週替わりで学校を訪れるボランティアが、お互いに参考にできるように、各小学校に記録簿を設置し、読んだ本のタイトルや子どもたちの反応などを記録しています。



先日、読み聞かせのボランティアが、小学生の下校時に見守りをしていたところ、女の子2人が駆け寄って来て、「おばちゃん、この間読んでくれた本『おならプー』っていうところおもしろかったよ」と声をかけてくれて、とってもうれしかったと言っていました。

身の回りのいろんな人が、自分たちのために様々な形で協力し、目を向けてくれているという安心感や信頼感が、子どもたちに少しずつ根付いてきているのを感じます。

将来的には、読み聞かせ活動が子どもたちの読書意欲につながっていくように、読み聞かせのレベルアップやブックトークについての研修などを計画していきたいと考えています。

### ⑤ 10月の玉井幼稚園 いも掘りの補助の実践

幼稚園の畑で育てているさつまいもの収穫の日に、3名のボランティアが手伝いに行きました。子どもたちの手でなかなか掘りきれないところを手伝いました。

ボランティアは、袋いっぱいにおいもを入れて「重い重い」と運ぶ子どもたちの姿を

見て、「幼稚園の子どもたちもよくがんばっていたぞい」と感心していました。

⑥ 10月の末に2日間にわたって行った**大玉中学校の家庭科調理実習支援**の実践  
大玉中学校は、今年度学級減のため、家庭科の先生が配置されていません。実際には、音楽や美術、技術などの担当外の先生が、学年ごとに家庭科の授業を行っています。

学校支援地域本部では、授業が充実するために、ぜひボランティアの力を活用していただきたいと考え、先生方と何度も打ち合わせを行って、1年生の家庭科の調理実習の支援を行いました。

「包丁名人になろう！」というテーマで、野菜を使っているいろいろな切り方のお手本を見せていただきました。また、まな板の下に濡れ布巾を敷くことでまな板が安定することや作業をしながら道具を片付けていくことなど、主婦ならではのアドバイスもしていただき、授業の内容もより充実したものになりました。

学校側では、ボランティアに任せる指導の範囲や個に応じた生徒への配慮などについて、3クラス分の事前打ち合わせが必要で、担当の先生には授業の空き時間を何度も割いたり指導案を書き換えたりと大変ご協力をいただきました。

しかし、この実践は、学校からの要請を待っているだけのボランティアではなく、本部から学校側に提案して実践したという点で、一步踏み込んだ実践となりました。



## 6 成果と課題

登録されたボランティアは、初めてお願いした時には「やったことないけど大丈夫かねえ」と言って、不安に感じていた方もいましたが、実際に活動に参加して、子どもたちと交流した後は「ほんとに楽しくできたぞい」「子どもたちが真剣に聞いてくれてうれしかった」という声が聞かれました。回を重ねていくうちに、ボランティアも慣れてきて“子どものためなら”と喜んで引き受けてくださっています。

学校側の要請とボランティアの協力がピタッと一致した時は、「本当によかったな」と思います。そして、無償でやってくださっているボランティアに、心から労いの言葉をかけたいと思います。

ただ、なかなか要請に合うボランティアが見つからなかったり、訪問の時に聞いた話が、ボランティアの実践に結びつかなかったりすることもあります。今後、ボランティアや学校側から不満の声が出た時には、その声をきちんと受け止めて、調整していく必要があります。

また、目の前にいる子どもたちへの指導、これからの授業や行事に向けての準備など、限られた時間の中で必死に仕事をしている先生方の姿を目の当たりにして、改めて学校の多忙さを知りました。今後も更に学校のために地域の力を生かしていきたいと思いません。

学校の教育課程を参考にボランティアの提案をしていくことは、難しい課題のひとつです。生涯学習課だけでなく、教育総務課とも連携し、相談しながらボランティアのあ

り方を探っていかなければなりません。

今後は、これまでの活動やこれからの予定などを盛り込んだ『学校支援地域本部だより』を作成して、保護者や地域の皆さんに見ていただいて、更に事業に関して理解していただき、ボランティアの輪を広げていきます。

また、これまで学校から要請のなかったボランティアには、何か活躍できる機会ができるよう、無理のない内容で学校側にも働きかけていきたいと思えます。

すべては“子どもたちの笑顔のため”“充実した学校生活のため”のボランティアが、地域教育力の向上につながっていくことを信じて、これからも取組んでいきたいと思えます。